

## 地域計画

策定年月日	令和7年3月3日
更新年月日	令和7年3月3日 (第1回)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	大熊町 07545
地域名 (地域内農業集落名)	大川原地区 (大川原)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	70 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	54 ha
② 田の面積	44 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	9 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	－ ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	40 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	－ ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	－ ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

## (2) 地域農業の現状及び課題

震災そして原発事故のため住民の多数は避難先が生活の拠点となった。町に帰還し営農を行っている農業者は少数であり、担い手の高齢化、担い手不足が現実的な課題である。  
遊休農地の発生を未然に防ぐためにも、意欲ある農業者や農業法人へ農地の利活用を委ねていきたい。

## (3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

地域全体で営農が発展・継続していく体制・組織(法人化等)作り。  
担い手の意向にそった農地の集積・集約を進め、作業の効率化と省力化を図る。  
外部人材や新規就農者の参入と定着のため、関係機関と連携した各種支援事業を実施する。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
担い手(認定農業者、農業法人)への農地の集積・集約化を基本としつつ、担い手の農作業に支障がない範囲で農業を担う者による農地の利活用を進める。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	57	%	将来の目標とする集積率
			60 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
団地数の削減及び団地面積の拡大を進める。(令和16年度)			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
営農面積を拡大する意向のある担い手を中心に、ゾーニングを進展させながら集積し、将来を見据えた効率的な農地の活用を考慮して集約を目指す。
(2)農地中間管理機構の活用方法
現在は福島県営農再開支援事業の管理耕作などの補助事業を活用する。 農業者の意向に沿った農地の集積・集約化を進め、将来的に担い手の効率的な営農に即した農地の集約化を図るため、今後、農地中間管理機構の活用について検討する。
(3)基盤整備事業への取組
特になし。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
多様な経営体から新規就農や参入の相談があった場合は、JAや県などの関係機関と連携し、農地の斡旋や技術指導、経営相談などについて助言、支援等を実施する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組
特になし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他
【選択した上記の取組内容】				
①鳥獣被害対策のための各種制度を利用し、ワイヤーメッシュや電気柵、ワナの効果的な設置及び更新に努める。				
②有機農業を営む農業者に対し、必要な支援を実施する。				
⑦荒廃農地の発生を防止し、また周辺農地に悪影響を及ぼさないよう、所有者による保全管理や担い手による管理・耕作を進める。				

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	A	麦、野菜、大豆	19.9 ha	ha	麦、野菜、大豆	19.9 ha	ha	①	
認農	B	水稻、大豆	15.0 ha	ha	野菜、水稻	15.0 ha	ha	②	
認農	C	野菜、水稻	10.2 ha	ha	水稻	10.2 ha	ha	③	
利用者	D	水稻	3.3 ha	ha	野菜	3.3 ha	ha	④	
利用者	E	水稻	2.3 ha	ha	水稻、大	2.3 ha	ha	⑤	
認農	F	野菜	4.0 ha	ha	果樹、野	4.0 ha	ha	⑥	
認農	G	水稻	1.7 ha	ha	水稻、大	1.7 ha	ha	⑦	
認農	H	水稻	0.6 ha	ha	水稻	0.6 ha	ha	⑩	
認農	I	水稻	0.4 ha	ha	水稻	0.4 ha	ha	⑫	
利用者	J	えごま	0.2 ha	ha	えごま	0.2 ha	ha	⑬	
			ha	ha		ha	ha		
			ha	ha		ha	ha		
計	10経営体		ha	ha		ha	ha		

- 注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。
- 2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。
- 3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。
- 4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。
- 5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

- 注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。
- 注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。
- 注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有に当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。